令和7年度　江戸川区立大杉東小学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	よりよい目標を実現する子 〇考える子　〇やさしい子　〇やりぬく子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	「夢のある学校」づくり　～一人一人の子供を主語にする学校教育の実現～ 〇「挨拶」「笑顔」「感謝」がしっかりできる児童　〇課題の解決に向けて、主体的かつ探究的に学ぶ児童 〇信頼に応える教師　〇授業で勝負する教師　〇「チーム大杉東」を高める教師　〇人生を充実させる教師
前年度までの本校の現状	成果：〇新校舎になり新たな教育活動を計画実践。落ちついた雰囲気で学習に取り組んでいる。 〇ミライシード、オクリンクプラスの活用部門で区内1位になった。ICTを活用し、児童の考えを共有する手立てとして有効活用できた。	課題	●児童の学力向上、授業スタンダードの徹底、自主学習の推進、基本的な学習習慣の確立が求められる。 ●教員の「働き方改革」のさらなる推進が求められる。 ●校内のＯＪＴを充実させ、若手教員の人材育成が求められる。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				９月	２月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	〇学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得	・学習スタンダードの徹底 ・放課後学習教室の有効活用	・全国学力調査全国平均値以上 ・江戸川区学力調査区平均以上	70%	75%	B	全国学力調査全国平均と比べ国語マイナス１％・算数マイナス３％とやや下回った。	B	数年前に比べて上昇傾向にあるので、今後の伸びに期待したい。	B	特に算数に対する学習の意欲は高まっているので、基礎基本の確実な習得を図っていきたい。	B	目標到達には至らなかったが、上昇傾向にあるのは良い傾向である。今後に期待する。	学力カルテを効果的に活用し、個々に合わせた学習に取り組ませることで学力向上を図る。
	〇主体的・対話的な深い学びの実現	・主体的、探究的な家庭学習の工夫 ・一人一台端末の効果的な活用	・「調べる学習コンクール」全児童参加、入賞。	80%	90%	B	学力テストの結果からタブレットを活用した学習に取り組めている児童が増えている。「調べる学習コンクール」には全員参加した。	B	家庭学習でもタブレットを活用して学習を進められている。調べる学習コンクールへの参加は今後も継続するとよい。	A	今年度初めて調べる学習コンクールで入賞者が出た。タブレットで調べる学習の学び方が分かるスライドを作成したことが効果的であった。	A	調べる学習コンクールに継続して取り組んできた成果が出た。継続が大事である。	情報共有に留まらない一人一台端末の活用をより一層進めていく。
	〇読書科の更なる充実	・週２回の朝学習の徹底 ・読書科における探究活動の実施	・家庭での読書率１０パーセントアップ	70%	80%	B	週2回の朝読書の徹底はできている。読書を楽しむ時間を増やし、主体的に読書の取り組めるようにしていく。	B	落ち着いた環境で読書に取り組む時間をとることで、本に親しみ、家庭での読書習慣につながるのではないか。	B	教員による読み聞かせやおすすめの本を紹介する読書の木、しおり作りの活動を行い、読書に対する意欲を高めた。	B	朝読書や読み聞かせの取組が読書に対する意識の高まりにつながったのではないか。	学校内だけでなく家庭でも本に親しめるよう本の貸し出しの機会を増やす。
体力の向上	〇心身の健康の保持増進と豊かなスポーツライフの実現	・体力テストの練習場所の設置 ・年３回縄跳びウィークの実施	・体力テスト全学年、東京都平均以上	90%	90%	A	ほとんどの学年で男女ともに東京都平均を上回ることができた。	A	良い結果を維持できたことは素晴らしい。縄跳びウィークなどの取組も成果を挙げている。	A	運動遊びに積極的に取り組む児童が多く、休み時間も思い切り体を動かして遊んでいる様子が見られた。	A	体力向上に向けて校内の環境づくりと同じように校庭の設備も整えていけると良い。	体力テスト前に、実施種目につながる運動を取り入れ、記録向上を目指す。
		・校内研究（体育科）の充実（外部との連携）	・毎月の研究授業（体つくり・保健・食育）	90%	90%	A	外部人材の活用により、児童は内発的動機付けをし、主体的に学ぶことができている。研究授業を通して保健学習の理解を深めた。	A	外部人材によるGボールの学習は、バランス感覚を養ったり体幹を鍛えたりすることにとても効果的でよい。	A	１１月に研究発表を行った。体力や健康、食についても良くしてこうとする意識が高まった。	A	研究発表会は、体育科だけでなく食育や保健についても様々な取組をしていることを広める良い機会となった。	２年間取り組んできた取組を研究発表後も継続しし、より良い効果をあげていく。
		・東っ子チャレンジタイムの実施	・日常的に運動に取り組む児童の割合８０％以上	80%	90%	B	遊びを覚えたり定着させたりすることに時間がかかった。教師が教え高学年がプレーリーダーとして活動できるようにしていく。	A	運動が苦手な子もいるので、期間を決めて取り組み、運動に親しむとよい。	A	活動に慣れてきたこともあり、遊びの工夫をしたり休み時間に取り組んだりするなど運動の日常化につながった。	A	東っ子チャレンジタイムやなわ跳びウィーク、マラソンウィークは体力向上に結びつく良い取組である。	今年度の取組を反省し、来年度の東っ子チャレンジの種目を決める。
共生社会の実現に向けた教育の推進	〇特別支援教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施	・「個票」を用いた校内ケース会議を月１回以上	80%	90%	B	月に１回ケース会議を開いて、学級や児童に合わせた支援方法を考え、実践している。	B	個に応じた指導をすることで、一人一人を大切にできている。	A	月に１回のケース会議には、巡回心理士を交えることで、より児童の実態に即した支援内容を検討し、実践した。	A	今後も、一人一人を大切にする教育活動を継続してほしい。専門家の力をどんどん借りると良い。	ユニバーサルデザインを取り入れた好事例を紹介し、よい一層特別支援教育を推進していく。
		・児童への特別支援教室への理解を促す授業の実施	・１，３，５年生に行い、児童の理解率を８０％以上	95%	95%	A	7月に3,5年生を対象に授業を行い、児童から８０パーセント以上の理解率を得た。１０月には１年生を対象に行う。	A	特別支援教室の環境が整っていてよい。理解教育を行うことで、特別支援教室に通いやすくなるのではないか。	A	１０月の学校公開時に１年生を対象に授業を行い、８０％以上の理解率を得た。３月には５年生を対象にした授業も行う。	A	理解教育はとても良い教育活動である。特別支援教室に通う児童への偏見をなくし、自分自身の理解も深まる。	特別支援教室の運営や理解教育の実施について広く周知し、保護者への理解も促していく。
	〇異学年交流の充実	・なかよし班活動の充実 ・全校レククリエーションの実施	「友達が困っていたら助けたりすすんで手伝ってあげたりしている」児童８０％以上	80%	80%	B	１０月に全校レククリエーションの実施予定。竹馬活動などでも上級生が下級生をフォローする様子が見られた。	A	学校での関わりが地域での関わりにもつながっている。町内会の行事には異学年で参加している。	B	代表委員会が異学年での遊びを企画するなど、学年を超えた交流が見られた。	A	異学年交流は思いやりの心を育んだりリーダーシップを育成したりする良い機会である。今後も継続を期待する。	なかよし班の実施回数や実施時間帯を検討し、来年度より良い活動になるよう計画する。
不登校・いじめ対応の充実	〇校内組織の連携	・SCとの連携（児童面接） ・職員研修	・５年生児童の全員面接の実施 ・生活指導研修会を年に３回以上実施	80%	90%	B	５年生の児童がSCと全員面接を行った。また特別支援委員会を開き、職員間の児童理解を深めた。	B	５年生とSCとの全員面接を行ったり教職員と関わったりして大人と相談しやすい環境を作ると子供は安心する。	A	年間を通して組織的に、不登校やいじめの対応を行うことができた。	A	SCと全員面談をすることで、その後相談しやすくなるだろう。相談先の選択肢を多くもたせてあげてほしい。	いじめや不登校に対する共通認識をより一層図るために職員研修を充実させる。
	〇児童理解の充実	・L-gateの実施	・L-gateの結果を活用した学年会、月に１回以上実施	85%	85%	B	毎日のL-gateの入力はできている。日々の振り返りを行い、児童理解に努めていく。	A	L-gateを活用して子供たちの日々の様子を教員が把握できるのは安心できる取組である。	B	教員がL-gateを活用する意識が高まり、気になる児童への指導も迅速に行った。	B	L-gateの効果的な活用を進めてほしい。	L-gateの全員実施を確実にするために定期的に確認作業を行う。
	〇不登校児童への支援	・エンカレッジルームの運用 ・SSWとの連携	・関係機関とのつながりが持てない児童を０％にする。	90%	90%	A	エンカレッジルームが機能し、教室に入れない児童の居場所として活用されている。	A	エンカレッジルームの活用が不登校の未然防止につながってると思う。今後も子供たちの居場所作りを進めてほしい。	A	エンカレッジルームやSSWを活用し関係機関とつながりをもてない児童は０％にできた。	A	全国的に不登校の児童が多いと聞く。今年度、関係機関とつながりがもてない児童０％は安心である。	エンカレッジルームの運用方法を明確にする。
地域社会に開かれた学校（園）の実現	〇校内の取組の積極的な発信	・学校HPの充実 ・学校公開の実施、充実	・学校HPの毎日の更新 ・学校公開保護者参加率８０％以上	85%	85%	B	学校公開保護者参観率は９０％を超えたが、道徳地区公開講座の参加者が乏しかった。	B	学校公開の保護者参加率が高いことは良い傾向である。今後も情報発信に努めていくとよい。	B	年間を通してHPの発信やテトルを活用した情報発信を行ってきた。道徳地区公開講座の実施方法を検討している。	A	テトルに流れる情報が多い。情報過多で周知がされないことがあるので、紙媒体と電子の使い分けも必要である。	学校HPの情報を精査し、見やすい構造にする。
	〇学校関係者評価の充実	・学校評議員会の実施 ・各行事毎のアンケートの実施と改善、充実	・学校評議員による各評価項目B以上 ・年度末肯定的評価平均値８５％以上	80%	85%	B	各行事毎にアンケートをとり、次年度の計画に反映している。	B	学校評議員会や行事毎のアンケートを受けて改善を図り、学校教育をより充実したものにしていくことを期待する。	B	学校評議員会や行事毎のアンケートを受けて改善を図り、次年度の計画を立てている。	B	アンケートを分析して来年度の計画を立て、より良い教育活動を展開することを期待する。	アンケートの回答率を上げるための方法を模索して実施する。
特色ある教育の展開	〇竹馬活動の実施	・竹馬活動、竹馬運動会の実施	・全児童が昨年のタイムを上回る。 ・１年生補助なしで歩ける率９０％以上	80%	80%	B	例年通り竹馬づくり、竹馬活動を行い、１１月の竹馬運動会に向けて練習を行っている。	B	異学年交流を兼ねた竹馬づくりや竹馬運動会を継続して伝統を引き継いでいくことを願う。	B	１１月の竹馬運動会は無事に成功した。反省を受けて次年度の計画を立てている。	A	校庭ができたことで練習機会が確保できたであろう。１年生が補助なしで歩ける割合が増えていて素晴らしい。	竹馬運動会で教職員や保護者から出た反省を基に改善策を立てる。
	〇金管バンド	・地域まつりや区行事への参加	・部員の活動満足度９０％以上	80%	80%	B	主体的に朝練をする児童も多く、行事に向けて練習に励んでいる。	B	１０月末のパレードが無事開催されるとよい。	B	１１月の管楽器演奏会に参加し、技能が高まってきている。パレードの中止の代わりに学校行事で演奏を披露した。	B	パレードの中止は残念だったが、代替え案によって児童の活躍の場が確保されて良かった。	金管バンドの部員を確保するための取組をする。